

おはようございます。2026年、年明け最初の登校日です。
少し長い冬休みが終わり、今日からまた、日常が動き始めます。
皆さんは、この朝を、どんな気持ちで迎えているでしょうか。

今日は、新しい年のスタートにあたって、二つの言葉を皆さんに届けたいと思います。
一つは、「先行き不透明な時代」
そしてもう一つは、「今を精一杯生き切る」という言葉です。

最近、ある教育誌の中で、東京大学名誉教授の佐藤学先生の言葉に出会いました。
先生は、こんな問い合わせを投げかけておられました。

「『先行き不透明』に見えるのは、曇った眼鏡で時代を見ているからではないか。
世界と社会の現実を見れば、現代は決して『先行き不透明』ではない。」
私たちちはよく、「これから時代は何が起こるかわからない」「将来が見えない」
そんな言葉を耳にします。でも本当に、未来は“見えない”のでしょうか。
世界に目を向ければ、戦争や分断、自然災害、貧困、不平等など、
確かに、簡単に答えるでない課題が山積みです。
けれど同時に、それらを前にして立ち止まらず、学び、考え、行動しようとする人々が、世界
のあちこちに確かに存在しています。
未来が「不透明」なのではなく、私たち自身が、どこを見て生きるのか、そこが問われている
のではないでしょうか。

では、そんな時代に生きる私たちは、何を大切にして歩めばよいのでしょうか。
そこで、二つ目の言葉です。
「今を精一杯生き切る」「生きる」ではなく、「生き切る」。
この“切る”という一文字には、逃げずに、立ち止まらず、自分に与えられた一日一日を、引き
受けて生きる、という強い意志が込められています。
未来を変えるために、特別な才能や、劇的な出来事が必要なわけではありません。
未来は、**今日**という一日、今この瞬間の選択の積み重ねの先にあります。
今を大切にしないまま、「そのうち」「いつか」「後で」と先送りした時間の先に、突然、充実
した未来が現れることがありません。
だからこそ、未来を描こうとするなら、**今を生き切ること**。
これが、どんな時代にも揺るがない答えだと、私は思っています。

この週末、大学入学共通テストに臨む3年生がいます。
不安や緊張を抱えていることでしょう。
思うようにいかなかった日々を、胸に抱えている人もいるかもしれません。
それでも、結果よりも前に、まず、ここまで来た、という事実があります。
ここまで歩んできた時間は、決して消えることはありません。

その歩みが、未来を形づくる大きな宝です。

挑戦に向かう皆さんを、全校のみんなで、心から応援しましょう。

1・2年生の皆さんにとっても、未来につながる大切な一年がすでに始まっています。
大きな目標でなくて構いません。

今日、誠実に向き合う一つの授業。

誰かにかける一言。

やるべきことから逃げない姿勢。

こうした「小さな今」を生き切る力が、やがて、未来の自分と世界を照らす光になります。

未来が見えないのでありません。

私たちが、この世界の現実の中で、今、何を大切に選び取るのかを、まだ定めていないだけなのです。

世界と社会の現実に目を開き、その中で自分はどう生きるのかを問い合わせ続けるなら、
進むべき一步は、必ず足元に見えてきます。

だからこそ、自分にしかない「今」を大切にしましょう。

2026年が、皆さん一人ひとりにとって、

「生き切った」と言える一年になることを、心から願っています。

今年も共に歩んでいきましょう。